

授業の玉手箱

「聞く」と「聴く」

夫 明美

この原稿を書いている6月中旬は、大学4年生と短大2年生が各実習校で先生方のご指導を受けながら教育実習に奮闘している時期です。短大の「事前事後指導」の授業内で、例年実習前に受講生と議論することをご紹介したいと思います。また、本内容は2012年12月のホームページ巻頭言のエッセイ「聞く力」と連動しています。

教育実習の主目的の一つに「生徒に対する理解を深める」ということがあげられると思います。そこで、「生徒を理解しようとする姿勢が相手や周りに伝わるには？」という問いかけを行います。ポピュラーなこたえは「生徒（子ども）と同じ目線にたつてコミュニケーションを行う」というものです。そこを踏み込んで「生徒（子ども）と同じ目線にたつてどういうこと？」、と質問を重ねてアイデアをつめていきます。そうすると、「まず、生徒の行動や学習姿勢を注意深く・静かに観察する」という最初の答えに比べると具体性をもったアイデアが出ます。「見守る」や「観察する」に関連した語、「相手の気持ちを推測する・理解しようとする」という表現が学生側から出ることがポイントです。

その後、私からも非常にポピュラーな「漢字の成り立ちの差異による『聴き方の違い』」を提示します。大半の学生は、過去に書物や先生方のお話を通して接したことがあるようですが、以下にご紹介します。

「聞く」は門構えの中に、耳という音声を認識する器官が入っています。一方、「聴く」には、耳以外にも、目と心という字が入っています。相手の様子や状況を観察するための目、相手の心情や彼女らの置かれている環境を想像・理解するための心が入っています。「聞く」よりも自分のもつ五官と心をフルに使用する様子がかがえると思います。この様子が相手に通じたとき、「自分は受容された」という気持ちが芽生えるのだと思います。

今回は「耳」という語が入ったハワイの格言をご紹介します。上記した漢字のアナロジーとは少々趣が異なりますが、心静かに集中する重要性を説いている点では共通点があるように思います。

Nānā ka maka; ho'olohe ka pepeiao; pa 'a ka waha.

Observe with the eyes, listen with the ears, shut the mouth.

= Thus how one learns.

参考文献

Pukui, M.K. (1983). *Ōlelo No'ea*. Bishop Museum Press, Honolulu, Hawai'i.

書籍紹介

『特別支援教育』多様なニーズへの挑戦

柘植雅義（著）、中公新書（2013）924円、266ページ



平成19年4月に「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、障害のある幼児・児童・生徒の支援を充実することとされて7年になる。

筆者は、本書の狙いについて、障害のある子どもの教育である特別支援教育について、わが国における130年以上の歴史を振り返り、現在を見つめ、将来を展望しようと試みたものである、と述べている。

11章にわたる本書は、特別支援教育のこれまでの歩み、教室での指導内容と指導方法、先駆的自治体での取り組みの紹介、新たな課題認識と対応など濃密かつ多岐にわたる内容となっており、読み応えのある一冊である。（中垣芳隆）

授業デザインスキルアップ演習

平成25年度教員支援講習（無料）

「生き生きとした英語表現活動」

平成25年8月8日（木）9:10～16:40

講習担当：中井 弘一（大阪女学院大学教授）

内容

- ・英語表現活動探究(1) 発音・音読による表現
- ・英語表現活動探究(2) 日英感覚の違いから起こる英語表現の違い
- ・英語表現活動探究(3) 英語表現の味わい：短歌・俳句・詩を表現する英語、英語による Creative Message
- ・英語表現活動探究(4) 英語表現創作活動：写真に添える言葉・絵本翻訳・英語ポスター・しおり



参加申し込み（定員40名：7月1日現在22名〔学生含む〕）

最終7月20日までに中井宛（nakai@wilmina.ac.jp）へ参加希望を

学校名、教職歴（年数）、お名前、連絡先（PCアドレス）を添えてご連絡ください。

「勉強会」今後の予定

■第25回勉強会「英語の教え方教室」

平成25年10月19日（土）14:00～17:00

大阪女学院大学

教職フィールドワーク 課題研究発表

学生 桑田紗佑里、奥村愛理、田井寛子、平岡麗南、中村沙貴、大杉日登美

9月に実施する本学の教職フィールドワーク（英国）は、以下の3点を研修・調査・開発内容とし、幅広い視野を有する将来の教員としての資質能力の育成をねらいとしている。

- ・英国の教育の実地を知るために中学校を訪問し、授業を1日参観したり、生徒や教員と教育について話し合ったりして、これからの教育を展望する考えをまとめ報告する。
- ・教材として扱われている名所の実地見聞や英国文化施設見学など様々なところを幅広く訪ね、訪問国の（生活）文化を学ぶ。
- ・訪問国で見聞したことを教材化することを通して教材開発能力を養う。

【予定】

■第26回勉強会「英語の教え方教室」

平成25年11月16日（土）14:00～17:00

和歌山県立那賀高等学校 加藤 純久 教諭

■第27回勉強会「英語の教え方教室」

平成25年12月7日（土）14:00～17:00

滋賀県立水口高等学校 吉野 欽哉 教諭

■第28回勉強会「英語の教え方教室」

平成26年2月1日（土）14:00～17:00

滋賀県立虎姫高等学校 小財 久美 教諭

大阪女学院高等学校 李 由紀子 講師



編集後記

7月は文月という。その語源は、短冊に歌や字を書き、書道の上達を祈った七夕の行事に因み、「文披月（ふみひらづき）」が転じたとする説が有力らしい。言葉を豊富に、思いや考えを相手にしっかりと伝えられるような言語学習をすることの大切さを伝えてゆきたい。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目2番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp